

# 季刊 ジャネット Ja-Net

No.25

2003年4月25日発行

- View from the Other Side ..... 3
- あちこち日本語ご紹介[茨城県 つくば市] ..... 4
- あちこち日本語ご紹介[ハンガリー共和国 プダベスト] ..... 5
- 教材紹介  
『みんなの日本語初級 I 導入・練習イラスト集』 ..... 6
- 『日本語文法演習時間を表す表現・テンス・アスペクト』 ..... 7
- なんでも情報BOX ..... 8

Ja-NetはJapanese Networkの略です。[にほんご]を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

スリーイーネットワーク

## 巻頭寄稿

### 外国籍の子どもたちのための 地域ネットワークづくり

◆ 東京学芸大学国際教育センター教授  
異文化間教育学会会長

佐藤 郡衛



#### 地域ネットワークをなぜ問題にするか

私が専門としている異文化間教育において、「地域ネットワーク」という言葉をよく聞くようになりました。この言葉には、一種の魔術的な響きがあります。地域の多国籍化、多民族化の進行とともにこの言葉が頻繁に、しかも重要なキーワードとして登場しますが、あまりに理念的、かつ理想的に語られています。「ネットワーク幻想」という言葉さえ聞かれます。

「何のための、誰のためのネットワークか」を問う必要があります。

外国籍の子どもたちの日本語支援は、何のために行うのでしょうか。「日本語の習得のため」「認知能力を発達させるため」「日本社会への適応のため」、いろいろと理由は考えられます。どのような理由にしろ、行き着くところは、子どもたちの生活の質を高めることにあるように思います。

#### 子どもの時間軸・空間軸をいかにつなぐか

外国籍の子どもたちの生活をみると、時間軸と空間軸が共に切断されているという問題を抱えています。時間軸というのは、子どもたちの過去と現在、そして未来がうまく結びついていないということです。他の文化で育ったという「過去」と日本にいる「現在」が教育上も生活上もつながっていないため、将来の展望がもてずにあります。子どもたちの母文化や母語が学校や日本の生活で重視されておらず、学習に必要な日本語の力の習得も母語保持もままならないため、明確な自己定義ができない状況におかれています。また、生活条件が安定していないことも、子どもたちの将来の生活設計に大きな影を落としています。

子どもたちの生活空間も分断しています。学校と家庭、学校と地域、所属学級と日本語教室など、子どもたちの生活空間に

一貫したつながりがないということです。例えば、家族は、子どもたちの教育、生活にとって支援の場になっていません。子どもたちは、日本語を習得すればするほど母語の喪失が進み、親子間のコミュニケーションが成立しないということも生じるようになってきました。

また、子どもたちが日本語を学習する場である日本語教室と所属学級とが切り離されているという問題もあります。日本語教室は、制度上、一般の学級と切り離されています。学習の内容はもちろん、その方法や進め方も日本語教室独自のものであるため、所属学級との間には大きな溝があります。子どもたちの生活から切り離されたところで日本語の学習が進められたり、日本語の学習と教科の学習が切断されたりしています。さらに、日本語を母語としない子どもたちは、言葉の壁もあり、地域生活からも疎外されており、地域の様々なリソースの利用ができないといった問題もあります。地域の中に友人関係や支援システムが成立していないため、孤立した生活を余儀なくされています。

日本語支援のための地域ネットワークは、こうした子どもたちの切断された時間軸と空間軸を接合していくために一定の役割をはたす必要があります。学校という場だけでなく、子どもの生活空間と時間軸を視野に入れたトータルな支援が必要になるためです。

#### 多様なネットワークの必要性

実際、さまざまな支援のネットワークが展開しています。例えば、首都圏のC団地に住む外国籍の中学生・高校生が組織している「すたんどばいみー」は、子どもたちの生活をトータルにとらえた支援をおこなっています。高校生数名を中心に組織された活動であり、小学生から大学進学者まで加わっていま

す。その活動内容は、運営委員会、学習補講教室の開催、母国語教室の開催、家庭訪問活動、スポーツ活動、討論会の開催、絵画教室の開催、C中学校選択教科「国際」へのボランティア参加など非常に多彩な活動を展開しています。そして、この活動を直接・間接に支援しているのが、地域在住のボランティア、母国語教室の講師、絵画教室の講師を引き受けている地域在住の外国人、研究者、地域で活動するボランティア団体、C団地を校区とする小中学校の教員有志などです。

志水宏吉さんは、この「すたんどばいみー」の活動を通してカンボジア国籍の中学3年生のソムケ君の変化の様子を紹介しています。ソムケ君は、小学校時代は「国際教室」で行われるイベントなどに参加することを嫌い、また、中学に進学しても選択教科の「国際」という授業への参加も渋々承諾していたということです。ただ、その態度に徐々に変化がみられるようになったといいます。中学校の「国際」の授業は、インドシナ三国の生徒を対象に、母文化や母国の地理や歴史を親の移動過程と重ねあわせながら学習していくように編成されたものです。そこに地域のボランティアや「すたんどばいみー」設立の中心になった高校生も参加するようになったことで、ソムケ君は、徐々に自分の心を開き積極的になり、10月の文化祭では、親に母国脱出の様子を聞いて、全校生徒の前でスピーチするまでになり、運営委員の一人として名前を連ねるようになったといいます（志水宏吉・清水陸美、「学校と地域のコラボレーション—ニューカマー家族の問題の改善に向けて—」、亀口憲治編、『現代のエスプリ コラボレーション』、2002年、至文堂、93～102頁）。

この実践は、子どもの生活空間をつなぐだけでなく、時間軸をもつなぐ試みといえます。その結果として、子どもの生活がより豊かになっていく様子がみてとれます。外国籍の子どもたちへの支援は、時間軸と空間軸とを接合していくための多様な場づくりと支援のためのネットワークが必要になることを示しています。外国籍の子どもの場合、学校という場、あるいは家族という場だけでなく、子どもの生活空間と時間軸を視野に入れたトータルな支援が必要であり、そのためにも多様で多層な支援のネットワークが不可欠になるわけです。

### 多文化共生に向けたネットワークづくりを

こうした地域の支援のためのネットワークは、いうまでもなく外国籍の子どものためだけにあってはならず、多様な意味合いが含まれています。武蔵野市国際交流協会の杉澤経子さんは、「日本語の活動の場は、外国人の抱える問題から、日本社会が、日本人が、自分たちの地域が、その多様性をどう受け入れ、問題認識をしていけるのか、そのプロセスをもっとも獲得しやすい『場』である」と思っている。そしてそのプロセスこそが自立した市民に育っていく『場』であると『現場』の活動の中で感じている」と大変興味深いとらえ方をしています（杉澤経子、「市民活動としての日本語学習支援」、『日本語学』vol.21、2002年、明治書院、60頁）。

地域における日本語支援は、多様な活動の中で様々な問題に

直面し、問題解決の道を模索するようになるが、その関わりのプロセスが大切なことを指摘しています。日本語支援の活動をみると、人と人との結びつき方や組織をつくり上げる原理が従来のものとは異なっているように思います。もともとある枠組みに外国籍の人を受け入れるのではなく、その枠組み自体を共に考えていくという、いわば「話し合いの公共空間」がつかられつつあります。そのことが多文化共生の地域づくりにつながっていくように思えてなりません。さらに、多様なネットワークが相互に関わりをもつことで、新しい地域づくりの方向性が見えてくるようにも思います。

8月22日に開催されるスリーエーネットワーク主催フォーラム「ことばと学び—昨日・今・明日—」では、こうした問題をみなさんと共に、考えてみたいと思っています。

今回テーマの「異文化間教育」についての情報は下記のHPでもご覧いただけます。また、東京学芸大学国際教育センターリソースルームでは外国人児童生徒教育、海外帰国子女教育、国際理解教育に関する資料、約3000点を所蔵し、閲覧することもできます（リソースルームHPをご覧ください）。

- 異文化間教育学会  
<http://crie.u-gakugei.ac.jp/iesj/>
- 東京学芸大学国際教育センターリソースルーム  
<http://crie.u-gakugei.ac.jp/resorceroom/index.html>
- 東京学芸大学国際教育センター佐藤研究室  
<http://www.u-gakugei.ac.jp/rgsato/>

### スリーエーネットワーク創立30周年記念行事 フォーラム「ことばと学び—昨日・今・明日—」

フォーラム「ことばと学び—昨日・今・明日—」は5月6日より受付を開始いたします。フォーラム内容、予定、お申し込みについては、下記をご覧ください。またHP：<http://www.3anet.co.jp/kolobatomanabi/index.html>にもその他詳しい情報（先生からのメッセージ、掲示板等）を掲載しています。

フォーラム内容（敬称略）	フォーラム日時
前半：全体会（パネル・ディスカッション） ・西原鈴子 （東京女子大学教授、日本語教育学会 会長、フォーラムコーディネーター） ・宇土泰寛 （港区立三光小学校教諭、 日本国際理解教育学会常任理事） ・佐藤郡衛 （東京学芸大学教授、異文化間教育学 会会長）	日時：2003年8月22日（金） 10：30～16：30 （開場：10：00、昼休み：90分） 会場：自由学園 明日館 171-0021 東京都豊島区西池袋2-31-3 定員：250人 費用：無料 問合せ申込み先： スリーエーネットワーク フォーラム担当 101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197 E-mail:ja-net@3anet.co.jp
後半：分科会 進行 ・大蔵守久（波多野ファミリスクール） ・岡崎晴（お茶の水女子大学） ・金子正人（横浜市いちろう小学校） ・齋藤ひろみ（東京学芸大学） ・松本一子（東海日本語ネットワーク）	

佐藤 郡衛（さとう ぐんえい）  
東京学芸大学国際教育センター教授  
異文化間教育学会会長  
専門は、異文化間教育学。ここ数年、学校のJSLカリキュラム（注）の開発に携わってきた。  
（注）JSL [Japanese as a second Language] :  
日本で生活するための、日本語を母語としない人に対しての日本語教育

#### 主要著書

『改訂新版 国際化と教育—異文化間教育学の視点から』（放送大学教育振興会）、『国際理解教育—多文化共生社会の学校づくり』（明石書店）、『海外・帰国子女教育の再構築』（玉川大学出版部）、『外国人児童生徒教育への取り組み』（共編著、教育出版）他

## VIEW FROM THE OTHER SIDE

## 人との出会いを通して得たもの

張 金



## 「日本」が私にくれたもの

「日本語って難しいよね」「国語の成績が悪かっただけでそんなこと言うなって」「うん。でもさ、俺たちは生まれつき日本語を話してるけど、日本に来て勉強をしている人たちはもっと苦労しているんだろうね」先日、学校の休み時間に、友達の会話を聞いた時、日本に来たばかりの頃の自分を思い出しました。

## 「日本ってなんだかカッコイイ」

「うわー、日本って何だかカッコイイや」今から9年前、小学2年生の私は父の仕事の都合で、家族と共に故郷の中国から日本に来ました。初めての外国ということもあり、幼い私にはすべてのものが新鮮に映り、日本での新生活に期待と不安を抱いていました。唯一の悩みは言葉でした。「日本語をうまく話せるようになれるかな。難しそう」周りの人々が聞き慣れない言葉で話しているのを聞く度に、私はひどく心細くなったのを覚えています。

日本に到着するとすぐに、日本の小学校に入学しました。そして私は外国人が嫌いという子からいじめを受けました。最初はいたずらや子供の悪ふざけ程度のものでしたが、次第にエスカレートし、私とそのいじめっ子に反発するとしばしば暴力を振るわれるようになりました。日本語が全然話せなかった私は、なぜ彼が私をいじめるのかまったくわかりませんでした。当時の自分には先生に訴えることも、友達に話すこともできず、悔しい惨めな思いをしていました。小学生の私にとって、この体験は心身ともに耐えがたいものでした。学校から、意気消沈して帰ってくる私に母が気づき励ましてくれました。自分の良き理解者（母）が身近にいてくれたことで私は救われました。一時は死にたいと思っていた自分でしたが、それがバカらしく思えるようにまくなりました。ある晩、母の言ってくれた言葉「自分という人間に自信と誇りを持ちなさい」を心の中で反芻するうちに、「日本語をたくさん勉強して、いつかあのいじめっ子を見返してやる！」と考えるようになりました。

## 「いじめっ子を見返してやりたい」

こうして私の日本語の勉強が本格的に始まりました。当時の私は、負けず嫌いであることがプラスに働いて、必死に勉強しました。朝起きると日本語の単語を暗記し、家を出るまでに教科書を読んで、わからないことをすべて父に聞きました。父は大学で日本語を勉強していました。父の日本語は、日本人の話

你好



す日本語とほとんど変わらないと子供心に思っていました。学校では国語の時間になると特別教室で先生が一对一で教えてくれました。家に帰るとすぐに教科書や新聞に目を通し、重要なところを何度もノートに写し、そして意味を調べました。

いじめっ子から自分を守るため、そしていじめっ子たちを見返してやることを心の励みとして勉強してきた努力が実り、約半年で日本語がほぼわかるようになりました。日常生活や学校生活においても、特に言葉の点に関しては何の心配もなくなりました。そして、いじめっ子とも、言葉を得たおかげで、打ち解け合うこともできました。

## 父と母といじめっ子と出会ったすべての人から得たもの

様々な国からの様々な人々が日本に滞在するようになりました。日本語が話せる人も、わからない人も、日本の文化や言葉に戸惑いを感じながらも、ひとつひとつの体験を通して、日本の習慣や日本人の特徴、言葉などに慣れる過程を通過してきているのではないのでしょうか。言葉や表情から相手の気持や考えを汲み取る能力は、教科書で勉強しただけではわかり得ないものです。自分の文化に誇りを持ち相手の文化も理解し尊重する態度、人との心のふれあいを大切にしようとする気持ちが大事なのだと思います。

今、私は日本に来たことを少しも後悔していません。多忙であつたにもかかわらず、私の日本語上達のためにいつも熱心に教えてくれた父、常に私を励まし、心の支えとなってくれた母、そして初めて日本に来た私にいじめというかたちで洗礼を与えてくれたあのいじめっ子に私は心から感謝しています。今の私があるのはすべて、私がこれまで関わり合った方々のおかげだと思っています。

張金（ちょうきん）

1985年中国ハルビン生まれ。1993年来日。栃木県内の小学校2年に編入。地元の小中学校を卒業し、現在栃木県立大田原高校3年。高校では生徒会長を務め、バスバンド部でサクスを吹く。

# あちこち日本語ご紹介

## 国内編



茨城県  
つくば市

### 子どもたちへの日本語サポート、17年

つくばインターナショナルグループ学校部  
葉石やす子

#### つくばインターナショナルグループ学校部 【TIG学校部】

茨城県つくば市には、風の会、樹の会、結の会、杜の会、ひかりの会という5つの会があり、公立小中学校で日本語補習の必要な児童生徒の日本語指導のお手伝いをしています。この5つの会はお互いの情報交換を目的とする「つくばインターナショナルグループ学校部」を構成しています。

近年はそれぞれの学校での活動に加えて、TIG学校部として新メンバーのための指導講座を開いたり、ひたちなか市から依頼の指導者育成講座を引き受けることもできるようになりました。



ひたちなか市公民館外国人子女への日本語指導者育成講座開校の様子

#### 風の会がまず発足

1985年ごろから増えてきた外国人児童生徒とその家族が自分の子どもの在籍する学校や地域でなかなか日本独特の習慣や学校のきまりごとが理解できず、そしてとりわけ日本語の修得に苦労しているのをまのあたりにして、母親の立場から何とかできることをしようと風の会が吾妻小学校で活動を開始（現在は吾妻中でも）、外国人父母の強い要望に押されて樹の会も手代木南小で何とか発足し、手代木中、松代小へと活動を広げ、一の宮

小には結の会、竹園西小に、ひかりの会（現在は竹園中でも）、東小学校（現在は谷田部東中でも）に杜の会が結成されました。どの会も自然な流れで立ち上がって現在に至っているのですが、TIG学校部という緩やかな連帯が5つの会にとって程よく機能しています。2003年1月現在のTIG学校部のメンバーは160人強です。

#### マンツーマンで教えています

どのグループも、学校で、授業時間内に先生と協力して基本的にはマンツーマンで教えています。多種多様多国籍の児童生徒が対象なので、個別に教えるのがいちばんなのです！一人の子どもを1日1時間、週5時間、学校の先生を含めて5人のチームで教えています。導入時のみ集中的に週10時間ほど組んでいるところもあります。また、週に1時間、全員集合の“文化の時間”をつくっているところもあります。この時間は子どもにとって、授業とお休み時間の中間にあたるようなところがあり、競争したり、助け合ったり、ちょっとふざけてみたり楽しそうです。

#### 中学生の場合

小学生は、ひらがなの勉強からはじめて、1年ぐらいうると自分の教室へとひとり立ちしていきますが、中学生の場合、なかなかクラスでの授業に参加できるレベルまで指導しきれていないのが、残念ながら現状です。クラスで使っている教科書を教材として使う時期を早くすること、どうやって高校受験準備の勉強と折り合いをつけるかが課題です。



“文化の時間”各自水を用意（写真上）、紙すきの材料をデザインしてはがきを作るうところ

#### 子どもたちとの17年が本に

37人の子どもたちの話やTIG学校部の活動、子どものための日本語指導をまとめた『Welcome to 日本語教室』が明石書店から発売中です。多くの方々に読んでいただければと思っています。



中学生は高校受験を控え、課題も多い。漢字に興味を持たせることができればかなり成功！

# あちこち日本語ご紹介

## 海外編

ハンガリー共和国  
ブダペスト

### 「実践から学ぶ」ことをモットーに

カーロリ・ガージュパール大学  
若井誠二

#### 1. ハンガリーでの日本語教育

ハンガリーでは1989年の体制転換前にはごくわずかの高等教育機関でしか日本語教育が行われていませんでした。しかし体制転換を境にその数が増え、中等・初等教育機関でも日本語教育が行われるようになってきました(注1)。この変化に対応できるよう、現在2つの大学で日本語教師養成コースが設置されていますが、今回はこのうちの1つ、カーロリ・ガージュパール大学での養成コースを紹介したいと思います。

#### 2. カーロリ大学での日本語教師養成コース

現在、カーロリ・ガージュパール大学では選択科目として「日本語教授法Ⅰ～Ⅴ」の授業が設置され、将来日本語教師を目指す3年生から5年生までがこの授業に参加しています(注2)。

例えば、車の免許を取得するためには路上教習が欠かせませんが、カーロリ大学での日本語教師養成コースでも「実践から学ぶ」ことをモットーにしています。例えば3年生では講義が中心ですが、講義を聞くだけということではなく、実際に体験して、感じたことやそこから考えたことをクラスで議論するように心がけています。また4年生前期ではマイ



個人教授の形で0年生に教える4年生。0年生からの質問にタジタジになってしまうことも

クロティーチング(模擬授業)を多用し、4年生後期、5年生前期では、同大学に設置されている大学入学準備コースの学生(通称0年生)を対象に補習講座を設置し、そこで実際に授業を行っています。

#### 3. 実践から学ぶために欠かせないこと

実践から学ぶ時に欠かせないのが「実践者自身の内省」、「相互協力体制の確立」です。確かに経験を積むことは大切ですが、それだけでは様々な面での「化石化」を促進させるだけで教師の成長には結びつきません。そこで教授法の授業では、いろいろな試みが繰り返されています。

例えば今年度、5年生前期の授業では、5年生が0年生に行う授業を仲間が観察するだけではなく、授業をすべてビデオに撮ることにしました。そして、それをまず授業を行った者が見て、そこで感じたことや考えたことを発表し、クラスの仲間で議論する時間を設けました。また現在、4年生後期の授業では、各自がそれぞれ1～2名の受講生を募り授業を進めながら、メーリングリストを通じて、授業内容の報告や、そこで発生した問題や疑問を議論しています。

もちろん常に議論が活発に行われるわけではありません。また議論も「計画通りに授業が進んだか」という点に意識が行きがちです。でも「なぜこの0年生は授業に集中しないんだ。」という意見から大激論になったり(5年生)、「クラスメートの授業を見て、自分も教え方を変えてみたら学習者の反応にこんな変化があった。」(4年生)という報告があるなど、思わぬ発見もたくさんあります。



授業ビデオチェックをする5年生。そこで感じたことや考えたことを発表し、クラスの仲間で議論する時間を設ける

#### 4. 変化しつづけることの大切さ

社会は地域ごとに多様性があり、同じ地域の社会も常に変化しています。この中で「日本語教師養成プログラム」だけが社会から独立し固定されたままということはありえません。カーロリ・ガージュパール大学の日本語教師養成プログラムも、学内のネットワークにとどまらず、例えばハンガリー日本語教師会とのネットワークづくりを通じて常に変化成長しつづけていけるように努力していきたいと考えています。

注1：2002年1月の国際交流基金ブダペスト事務所の調べでは、12の高等教育機関、15の初等・中等教育機関、4のその他の機関で日本語教育が行われているそうです。

注2：3年生前後期でⅠⅡ、4年生前後期でⅢⅣ、そして5年生前期でⅤ。5年生の後期は中等教育機関へ行き、教育実習を行います。

若井誠二さんのHP「ハンガリー情報マガジン」では、他にも様々なハンガリーの日本語情報を掲載しています。どうぞご覧ください。  
<http://www.geocities.jp/HearLandHimawari/6090/>

# 教材紹介

『みんなの日本語初級Ⅰ 導入・練習イラスト集』

『日本語文法演習 時間を表す表現-テンス・アスペクト-』



## 『みんなの日本語初級Ⅰ 導入・練習イラスト集』

飯島ひとみ 芝薫 高本佳代子 村上まさみ

皆さんの中には、授業の準備をしながら、授業で使用できるイラストがあったら、また、自分でそういうイラストを自在に描くことができれば、と考えたことはありませんか？

若手日本語教師のグループの私達が「そうだ、中心的な文型すべてに導入用のイラストがあって、それが1冊にまとまっていたらどんなに良いだろう。よし！これがあればだれにでも『みんなの日本語』の文型が導入できる！と言えるような1冊を作ってしまう」と大志を抱いて2年半、試行錯誤を繰り返して完成したのがこの『みんなの日本語初級Ⅰ 導入・練習イラスト集』です。

教材の作成にあたり、まず考えたことは「笑いのある楽しい授業」でした。学生も授業に出ることが楽しみになれば、勉強する辛さも少しは薄れるはず。本教材も「授業中に楽しい会話が生まれるきっかけとなるイラスト」を目指しました。本書は導入、練習、応用、復習と4種類のイラスト88枚があり、別冊の解説で使用例を紹介しています。このイラストが多くの方々に使用していただけることを願っております。

### ●本書の特色

- 工夫されたイラストで文型の導入と練習ができる。
  - ・シンプルで印象的なイラストで導入が容易。
  - ・練習や応用のイラストで会話の発展を助ける。
  - ・原則として、文型ごとに導入から練習、応用までの絵教材が揃う。
  - ・日常生活ですぐに役立つ場面を設定した。
  - ・社会的な情報や日常生活の比較等、日本事情や異文化理解につながる要素を盛り込んだ。
  - ・課や解説の内容を超えてイラスト素材集としても利用できる。
  - ・切り取って使えるよう、キリトリセンを入れた。
- 別冊の解説で、経験の浅い教師でも容易に利用できる。
  - ・そのまま使える「活動例」を掲載。
  - ・授業準備の時間が短縮できる。
- 『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠している。
  - ・各課の主な文型を網羅。
  - ・使用語彙は原則的に『みんなの日本語初級Ⅰ』に準拠している。

23番：第7課／練習 わたしはあかねさんに電話をかけます。  
学習項目：～に～を～ます。



82番：第24課／練習 本を持ってもらいました。  
学習項目：～てあげます。～てもらいます。～てくれます。



みんなの日本語初級Ⅰ  
導入・練習イラスト集

B5判 90頁(別冊40頁) 2,200円  
著者：飯島ひとみ 芝薫  
高本佳代子 村上まさみ



日本語文法演習  
時間を表す表現  
-テンス・アスペクト-

B5判 70頁 1,300円  
著者：庵功雄 清水佳子



『日本語文法演習 時間を表す表現 -テンス・アスペクト-』

スリーエーネットワーク 教材開発部

この日本語文法演習シリーズは、上級レベルの日本語を適切に産出するために、文法をわかりやすく整理説明し使い方の練習をするものです。

日本語の基本的な構造に深くかかわる文法項目(自動詞・他動詞、敬語、条件表現、時間の表現、指示詞、文末表現、助詞など)については、初級段階で一通り学びますが、中上級に至っても学習者から「使い方がよくわからない」という声がしばしば聞かれます。中上級では、これまで表現文型を指導するための努力が多く積み重ねられ教材も整ってききましたが、文の構造に関わる文法項目については学習者の習得にゆだねられてきたような面があります。上級においてもそのレベルに応じた文法が必要です。それらを実例の文脈の中で積極的に学習し現場で使える教材を提供していきたいと考えています。

学習者はもとより指導する立場の方々にも、文法は学習目標というより「便利な道具」であることをお伝えできれば幸いです。

本書は、上記文法項目のうち、「～する、～した、～している」といったいわゆる「テンス・アスペクト」を扱います。例えば

- ・ 店に買い物に入って、商品を見せてほしいと言ったときには、店員は「ありがとうございます」と言うが、店から出るときは、店員は「ありがとうございました」と言う。これはなぜか。

- ・ 犯人の行動を調べた刑事が上司に報告する場合、「犯人は3日前、その店で食事をしています」のように、過去を表すことばと「～している」(「～していた」ではなく)がいっしょに使われる。これはなぜか。

このようなことについても見ていきます。

内容が「腑に落ちる」ように、文法規則を最初に示すのではなく、使う人もルールを導きながら考えるという手法をとっています。流れとしては、概ね「典型」から「拡張」へと構成になっています。具体的な用法を見て理由を考え、最後に実際に使われている文(生の文章)に則して練習をします。

本書は2001年から作成し、一橋大学留学生センターで使用してきたものです。上級学習者の方々、日本語教育に携わる方々のお役に立てば幸いです。

本書の目次

- |                                      |                        |
|--------------------------------------|------------------------|
| 1. ～する、～した、～してしまう<br>ウォームアップ         | 3. ～しつつある              |
| 1. 主節の「～する、～した」                      | 4. ～したことがある            |
| 1. ～する                               | Ⅲ. 総合練習                |
| 2. ～した                               |                        |
| 3. ～してしまう                            | 3 時間を表すその他の表現          |
| 4. 「～した」の特別な用法                       | ウォームアップ                |
| Ⅱ. 従属節の「～する、～した」                     | 1. 「に」がつく場合、「に」がつかない場合 |
| Ⅲ. 名詞修飾節の中の「～する、～した」                 | 2. 「～ところだ」「～ばかりだ」      |
| Ⅳ. 総合練習                              | 3. 開始、終了を表す表現          |
|                                      | 4. その他の表現              |
| 2. ～している、～し続ける、～してある、～しつつある、～したことがある | ちよつと一息                 |
| ウォームアップ                              | ① 物語文の「～する、～した」        |
| Ⅰ. ～している                             | ② 「～した」と「～していた」        |
| 1. 「～している」の基本的な用法                    | ③ 「～したて」               |
| 2. 「～している」のその他の用法                    | ④ 「～だす」「～やむ」           |
| 3. 思考を表す動詞と「～している」                   | ⑤ 「ところ」のいろいろな意味        |
| Ⅱ. 「～している」とその他の形の使い分け                |                        |
| 1. ～し続ける                             |                        |
| 2. ～してある                             |                        |

① ～する、～した、～してしまう

ウォームアップ

1. 次の文章をよんでください。下線部分の意味が読み取れずらいものに注目してください。
- (1) 本日から出張が決定です。
  - (2) コンサートは本朝に決まりました。
  - (3) 子供の結婚相手は決まっています。
  - (4) 代表が職を去るとは想像がつかないと言われていました。
  - (5) エレベーターが壊れたと知らせが来ました。
  - (6) 試験結果はよいですが、試験が終わってからは毎日寝込んでいました。
  - (7) 彼女が海外出張で数週間を海外に滞在し、帰国後、仕事に復帰するまでに2週間を要する。
  - (8) 妻が急死したと知らされたのは、つい最近のことです。
2. 次の文章を読んでください。文中の「～する、～した、～してしまう」の用法を説明してください。
- (1) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (2) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (3) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (4) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (5) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (6) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (7) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。
  - (8) 彼は、この仕事に一生懸命に取り組んでいました。

# なんでも情報

## BOX



### セミナー

### SEMINARS



#### ●初心者のための『みんなの日本語初級 I、II』の教え方・東京会場

内容：①『みんなの日本語初級 I』  
②『みんなの日本語初級 II』  
③「中級日本語の教え方を考える～『新日本語の中級』を中心に～」  
\*①②は各計10時間③は計4時間

日時：① 5月26日(月) 13:30～17:00  
5月28日(水) 13:30～17:00  
5月30日(金) 13:30～16:30  
② 6月2日(月) 13:30～17:00  
6月4日(水) 13:30～17:00  
6月6日(金) 13:30～16:30  
③ 6月17日(火) 13:30～17:30

会場：アジア文化会館(東京都文京区本駒込2-12-13)  
講師：飯塚達雄(スリーエーネットワーク日本語講師)  
定員：25名(8名より開講)  
費用：①②各15,000円 ③6,000円  
問合せ/申込み先：スリーエーネットワーク講座係  
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル  
TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197  
E-mail:ja-net@3anet.co.jp

#### ●丸善主催日本語講座 仙台会場・東京会場

内容：「新日本語の中級」を使った教え方について  
講師：石沢弘子(【財】海外技術者研修協会)  
費用：無料  
(以上、両会場とも)

【仙台会場】  
日時：5月31日(土) 13:30～15:30  
会場：プラザ文化センター仙台  
問合せ/申込み先：丸善仙台アエル店 洋書売場  
担当：瀬戸  
980-6101 仙台市青葉区中央1丁目3-1 アエル1F  
TEL:022-264-0151 FAX:022-264-0112  
【東京会場】  
日時：6月14日(土) 13:30～15:30  
会場：第二丸善ビル  
問合せ/申込み先：丸善日本橋店 4F洋書のフロア  
担当：曾根  
103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10  
TEL:03-3272-7211(大代表)内線5952  
FAX:03-3273-3268

### ほん

### BOOKS

本誌に表示した価格は税別です。

みんなの日本語初級 I 導入・練習イラスト集	発売中	2,200円
みんなの日本語初級 II 翻訳・文法解説ロシア語版	発売中	2,000円
翻訳・文法解説ドイツ語版	6月発売予定	2,000円
新日本語の中級 文法解説書 中国語版	発売中	1,600円
新日本語の中級 文法解説書 韓国語版	5月発売予定	1,600円
新日本語の中級 分冊 韓国語訳	5月発売予定	1,700円
日本語文法演習時間を表す表現-テンス・アスペクト-	発売中	1,300円
日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現-待遇表現-	5月発売予定	1,300円

本書では「敬語を中心とした対人関係の表現」という視点から「待遇表現」を扱っています。敬語の用法、授受表現などを学んだ後、場面に応じた使い方と表現を学びます。

新訂版 日本を知る-その暮らし365日-	発売中	2,200円
語彙力ぐんぐん 1日10分	5月発売予定	800円

中上級レベルで必要な擬音語擬態語、慣用表現などを楽しむ文を使って学習する教材です。授業のちょっとした空き時間にウォームアップや最後のまとめとして使えます。主要中上級レベル教科書(「日本語中級J501」「テーマ別中級から学ぶ日本語」「テーマ別上級で学ぶ日本語」「生きた素材で学ぶ 中級から上級への日本語」)の対照表付。

改訂版 韓国語レッスン初級 I・II	発売中	各2,400円
改訂版 韓国語レッスン初級 I・II CD	発売中	各2,800円
[日英対訳] / [日中対訳] 日本で暮らす外国人のための生活マニュアル2003/2004年版	発売中	各1,800円

BENVIND A ESCOLA PRIMÁRIA DO JAPÃO ブラジル人と小学校教師のための学校生活まるとガイド-ポルトガル語訳つき-	5月発売予定	1,500円
--	--------	--------

ブラジルから来た子どもたちが日本の小学校で楽しく学べるように、学校生活について日本語とポルトガル語で解説しました。「日本語学習のヒント」のコーナーでは学校からのプリントの読み取りや電話での欠席の伝え方などの練習もできます。

●スリーエーネットワーク創立30周年記念行事  
フォーラム「ことばと学び-昨日・今・明日-」  
多文化共生する現代の子どもたちのだれもが社会的・経済的に自立して生きていける大人になるために、「ことばと学び」をめくって、現場に根ざし、かつ学校教育・地域・日本語教育に関わる方々で全体を見渡した意見交換の場を持ちたい。今回のフォーラムは、このような趣旨の下に弊社の創立30周年を記念して企画いたしました。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。  
フォーラム受付を開始します!  
5月6日より受付を開始いたします。お問合せ/お申込みについてはHPから、またはフォーラム担当までお問い合わせください(フォーラム日時、内容等、予定については本誌2ページにも掲載しています)。  
HP: <http://www.3anet.co.jp/kotobatomanabi/index.html>  
問合せ/申込み先：スリーエーネットワークフォーラム担当  
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル  
TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6197  
E-mail:ja-net@3anet.co.jp

### お知らせ INFORMATION

●「みんなの日本語初級 I」準拠活動教案発表  
「みんなの日本語初級 I」準拠活動教案には楽しい「活動例」を多数応募いただきありがとうございます。受賞作品はJa-Net25号別冊にて発表いたします。  
優秀賞：山下尚子 第25課「あなたはどんな人？」  
佳作：東樹和美 第4課「すみませんが、あけてください」  
特別賞：長倉圭子 第11課「みんなの折り鶴・千羽鶴」(敬称略)

●皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させて頂いた方には粗品を進呈いたします。また本誌をご希望の方は、お名前、ご住所、所属をFAX等で編集室までお知らせください。無料でお届けします(国内のみとさせていただきます)。『Ja-Net』第26号は7月25日発行予定です。

2003年4月25日発行

●発行人 藤野政子  
●発行所 (株)スリーエーネットワーク  
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル  
Ja-Net編集室 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197  
営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195  
<http://www.3anet.co.jp> E-mail: ja-net@3anet.co.jp

●印刷

© 2003 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)

## Ja-Net 季刊 ジャネット No.25

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。